

2025年5月1日09:30(日本時間) / 00:30(協定世界時)まで公開禁止

auじぶん銀行 日本製造業PMI®

4月の業況、引き続き悪化

主な動向

生産高、8か月連続で減少

新規受注と新規輸出受注、ともに減少ペースが加速

景況感、2020年6月以来の低水準まで落ち込む

最新の調査データによると、4月の日本の製造業全体の業況はさらに悪化。新規輸出受注が過去6か月間で最も急激に落ち込む中で、新規受注も着実に減少した。低迷する需要環境と顧客支出の減少を要因として指摘する企業が多かった。これを受けて、企業らは生産規模を小幅縮小し、購買数量と在庫を削減した。価格指数は、購買コストと販売価格が引き続き記録的な勢いで上昇したことを示したが、インフレ率は3月よりは和らいだ。今後1年間の生産高予想の評価について、企業らは楽観的な見通しを4月に引き下げた。今後の世界経済と貿易環境に対する懸念から、全体的な景況感は2020年6月以来の低水準まで落ち込んだ。

4月の主要指数のauじぶん銀行日本製造業購買担当者指数™(PMI®)(製造業の業況を総合的に表す指標)は、3月の48.4から48.7にわずかに上昇。製造業の業況が、全体としては小幅ではあるが、10か月連続で悪化したことを示した。

4月のセクター別データは、セクターによって異なる傾向を明確に示した。業況は中間財セクターと生産財セクターでは悪化した。消費財セクター企業は再び改善へと転じた。

日本製品に対する需要は4月も引き続き減少した。新規受注は、2024年2月以来最も速いペースで着実に低下した。企業の多くが国内外の顧客支出の低迷を要因として指摘した。新規輸出受注も同様に顕著なペースで低下し、過去6か月間で最大の減少率となった。需要が減少している輸出市場として、中国本土、欧州、米国が挙げられた。

需要環境の低迷により、企業は4月に再び生産水準を引き下げた。ただ2025年に入ってから、4月の縮小ペースは最も小さく、緩やかだった。

それでも、生産高と新規受注の持続的な減少を受け、企業らは購買数量を7か月連続で削減し、同時に購買品在庫と完成品在庫を引き下げた。

一方、サプライヤー業況はわずかに悪化した。リードタイムの長期化は原材料不足が主要因であった。

(次頁に続く)

auじぶん銀行 日本製造業PMI
季節調整済み、>50 = 前月比で改善

出所: auじぶん銀行、S&PグローバルPMI

本調査データ集計期間: 2025年4月9日~23日

コメント

S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンス、エコノミクス・アソシエイト・ディレクターのAnnabel Fiddesによる最新調査結果についてのコメント

「日本の製造業全体の業況は、4月に引き続き悪化した。企業らは、新規受注と新規輸出売上高の減少ペースがともに加速したと指摘。

これを受けて、企業らは購買活動の縮小と在庫の調整に動いた。同時に、需要見通しに対する懸念が今後1年間の予想に暗い影を落としている。将来の生産高に関する景況感は、2020年半ばの新型コロナパンデミック第1波以来の低水準を記録した。企業らは世界的な貿易環境と需要をめぐる不確実性の高まりから、警戒感を強めていると述べた。

国内外需要の大幅な改善がない限り、業況の回復は困難になる可能性が高い。そのためには世界的な見通しの改善や、将来の貿易関係に関する確実性が高まる必要がある。」

需要環境が低迷する一方、製造業は4月も引き続き雇用を増加した。しかし、雇用者数増のペースは小幅にとどまった。欠員補充のために雇用者を増員したと報告した企業もあった。雇用者数の増加、および完了した案件に代わる新規受注の不足が、受注残のさらなる削減へとつながった。

4月の調査データによると、平均購買コストは全般的に高水準で推移したものの、上昇率は1年ぶりの低水準だった。企業らは、特に輸送費、燃料費、人件費、原材料費など、さまざまな品目で価格が上昇したと述べた。

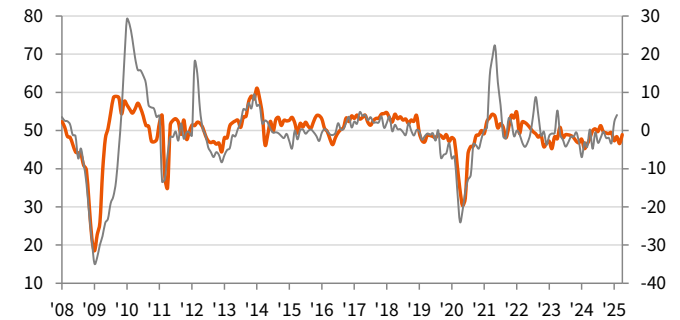
営業利益率を確保する施策の一環として、製造業は第2四半期に入り製品価格を引き上げた。製品価格のインフレ率は7か月ぶりの水準まで低下したものの、調査史上平均を上回る状態が続いている。

世界経済の先行きと米国の関税措置に対する懸念が、4月の景況感の重荷となった。企業らは概ね、今後1年間での生産高増を予想しているものの、楽観的な見通しは2020年6月の新型コロナパンデミック第1波以来の低水準を記録した。

PMI生産高指数

季節調整済み、>50 = 前月比で増加

製造業生産高
前年比 (%)



出所: auじぶん銀行、S&PグローバルPMI、経産省 (S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンス)

お問い合わせはこちらどうぞ

Annabel Fiddes
エコノミクス・アソシエイト・ディレクター
S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンス
電話: +44 1491 461 010
annabel.fiddes@spglobal.com

広報部門
S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンス
press.mi@spglobal.com

調査方法

auじぶん銀行日本製造業PMI®は、S&Pグローバルが製造業約400社の購買担当者に毎月調査を行い、その回答をもとにまとめています。調査対象企業は、GDPへの貢献度に従い産業セクターおよび従業員数別に階層化されています。

調査回答は前月比での変化を示すもので、各月の後半に収集されます。これにもとづき、サブインデックスごとの拡散指数(ディフュージョン・インデックス)を算出します。各指数は「増加/上昇」と回答した企業の比率と、「同じ」と回答した企業の比率の半分の合計です。数値は0~100の間で変動し、50を超えれば前月比で全体として増加したことを、50を割り込めば全体として減少したことを意味します。そのうえで指数に季節調整が加えられます。

主要指数は購買担当者指数™(PMI)です。PMIは次の5つのサブインデックスの加重平均です: 新規受注(30%)、生産高(25%)、雇用(20%)、サプライヤー納期(15%)、購買品在庫(10%)。ただしサプライヤー納期指数は、結果として得られる数値が他の指数と比較可能になる計算方法で算出しています。

基本的調査データは発表後に修正されることはありません。ただし季節調整要因は必要に応じて修正されることがあり、その場合は季節調整済みデータに影響が及びます。

本調査データ集計期間: 2025年4月9日~23日

PMI調査方法の詳細は、economics@spglobal.comへお問い合わせください。

免責事項

ここに提供するデータの知的所有権はS&Pグローバル・インク及び/又はその関連会社に帰属し、もしくは使用が許諾されています。当データのいかなる部分についても複製、配布、伝達またはその他の行為を含む無許可の使用は、S&Pグローバル・インクから事前の承諾がない限り認められません。S&Pグローバル・インクは、当レポートの内容またはそこに含まれる情報(「データ」)、データ上のいかなる間違い、不正確な記述、脱落、遅延による、またはそれに関連した責任、義務、負担のいずれをも負うものでなく、またこれにもとづきとられたいかなる行為についても責任、義務、負担のいずれもを負いません。当データの使用によって生じるいかなる特殊、偶発的もしくは間接的損害についても、S&Pグローバル・インクは一切責任を負いかねますので予めご了承下さい。Purchasing Managers' Index™およびPMI®はS&Pグローバル・インクの商標または登録商標、もしくはS&Pグローバル・インク及び/又はその関連会社に使用が許諾されたものです。

ここに提供するコンテンツは、S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンスが公開しています。S&Pグローバル・インクの別部門であるS&Pグローバル・レーティングが公開するコンテンツではありません。関係当事者から書面による事前の許可がない限り、形態を問わず、評価を含まない情報、データ、資料(「コンテンツ」)の複製を禁止しています。関係当事者、関連会社、サプライヤー(「コンテンツプロバイダー」)は、コンテンツの正確性、妥当性、完全性、適時性、可用性を保証しません。また、いかなる間違いや脱落(疎漏など)、あるいは当該コンテンツの使用により生じた結果に対して責任を負いません。コンテンツのいかなる使用に関連するあらゆる損害、コスト、費用、弁護士費用、または損失(喪失利益や逸失利益、機会費用など)について、コンテンツプロバイダーは一切責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

PMI®

by S&P Global

© 2025 S&P Global